

令和6年度事業報告書 2024年7月1日から2025年6月30日まで

法人の名称 特定非営利活動法人サードプレイス

I 事業の成果

今年度は、子どもたちの居場所づくりに加え、これまでの取り組みを土台にしながら、内外に向けた新たな仕組みづくりを進め、次なる展開へつながる種を蒔いた一年となりました。私たちの活動が地域や関係機関とのつながりを広げ、社会全体に根を張っていくためには、長期的な視点に立った基盤づくりが不可欠です。外部との協働の可能性を探るとともに、法人内でも新しい試みを積極的に導入しました。

特に、鶴見区に根差した法人としての存在を確立することを目標に、地域との連携を深めました。多様な団体や住民の皆さんと共に活動に参画し、地域の課題に寄り添いながら、互いに支え合う関係性を築いてきました。地域の一員としての責任と役割を自覚しながら、信頼される法人へと歩みを進めています。

また、WAM 助成事業を通じて、既存事業の拡充を図るとともに、新規事業にも果敢にチャレンジしました。その過程では、事業の実効性や持続可能性について丁寧に検証し、成果と課題を明確にすることで、今後の事業展開に活かすことができました。あわせて、次世代を担う人材の育成にも力を入れ、若手職員が学びながら成長できる機会を設けるなど、未来につながる人づくりを推進しました。

さらに、5年先を見据えた法人運営基盤の見直しを進め、子どもたちへの支援を安定的に継続できるよう、財政面や組織運営のあり方を検討しました。その中で、職員が安心して働く職場環境の整備にも取り組み、持続可能な法人経営と福祉事業の両立を目指しています。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 子どもの発達における総合支援事業

ア 子どもたちの居場所づくり実践

子どもたちの居場所づくりの取り組みを実施。



・公共施設での子どもたちの居場所づくり：地区センターカフェ

「行けば誰かいる」という子どもたちにとっての待ち合わせ場所であり、頼れる大人に会える場づくりの実施。活動が7年を超え、小学生で遊んでいた子たちが高校生になり、ボランティア活動に参加してくれるよう。居場所として在り続ける大切さを実感。

日 時：毎週火曜日 15:00～17:00 オープンスペース

場 所：横浜市寺尾地区センター

開催回数：オープンスペース 41回

学習支援 5回

参加者数：オープンスペース 延べ803人（うちこども723人・大人80人）

※鶴見区青少年の居場所づくり活動補助金を受け実施

・公立中学校内の放課後学習支援

中学校の校舎内（図書室等）での放課後学習会の実施。生徒一人ひとりに寄り添った個別対応により、学習の困り事のみならず生活面での相談にも対応。寺尾中学校「てらお地域学校協働本部」の学びづくり部 放課後学び場事業として実施。

日 時：木曜日（月2回） 主に16:00～17:30
場 所：横浜市立寺尾中学校
開催回数：20回
参加者数：生徒 延べ79人・学習支援ボランティア/スタッフ 延べ85人

・高校生のための居場所「つみれ自習室」

放課後の高校生の居場所として実施。勉強の目的だけでなく、大学生スタッフに進路相談や大学生活を聞いたり、就活や推し活などの話をしたりと参加者それぞれが目的をもって参加している。身近にロールモデルがいることで、進学や将来のイメージに役立っている。

日 時：木曜日 16:00～19:00

場 所：地域活動交流拠点 230cafe（つみれカフェ）

開催回数：47回

参加者数：中高校生 延べ334人 スタッフ・ボランティア：延べ209人

※令和6年度／令和7年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の助成を受け実施

イ 児童家庭支援センター「つるみらいの運営」

児童家庭支援センターは、児童福祉法に基づき設置された児童福祉施設。地域の子育て家庭の皆さんからの相談に対して、専門的な支援や援助をおこなう。横浜市鶴見区にお住まいの方が利用。スタッフは、社会福祉士、心理士、保育士など雇用し運営。

相談対応件数：延べ 4,029件（前年度実績 4,065件）

子育て短期支援事業（一時預かり支援）件数：203件 延べ214日

（昨年実績：269件 延べ308日）

ウ 鶴見区寄り添い型生活支援事業「つるみ元気塾」の運営

学校の放課後に通所する場を開設し、生活習慣等を身に付ける機会を提供するとともに、必要に応じて保護者への支援をおこない、利用する子どもたちが自立した生活や未来を描けるよう、「体験」や「学び」に力を入れ事業を実施。

※寄り添い型生活支援事業 車両送迎に係る実施要領に基づき、子どもたちの利用にあたり車両での送迎を実施。

登録人数：10人（昨年実績：9人）

開所日数：240日（昨年実績：240日）

利用人数：延べ299人（昨年実績：延べ246人）

エ 講演・啓発事業

・寄付の教室

日 時：令和6年10月23日（水）13:30～15:10

場 所：神奈川県立二俣川看護福祉高等学校

参加者：23人

・事業活動報告会

実施回数：オンライン5回 会場1回

・視察報告会

日 時：令和 6 年 12 月 23 日（月）20:00～

視察先：「社会的養育総合支援センター 一陽」 福井県越前市

・研修会

日 時：令和 7 年 2 月 7 日（金）19:00～

内 容：重層的支援体制整備事業を学ぶ

参加者：29 人（会場 12 人、オンライン 17 人）

才 子どもの体感・体験・学習イベント

・つるみ子育て個育ちフォーラムへの参加

子どもたちが健やかに、心豊かに育つ地域づくりを進めていくことを目的に、鶴見区内で子育て支援や青少年育成に携わる団体や区民有志が一堂に会すイベント「つるみ子育て個育ちフォーラム」の運営委員、企画委員として協力。

・子どもたちに「音楽を届ける」プロジェクト 100 万人のクラシックライブ

日 時：令和 6 年 8 月 2 日（金）14:00～15:00

場 所：本町通三丁目会館

参加者：延べ 25 人

主 催：児童家庭支援センターつるみらい

協 力：一般社団法人 100 万人のクラシックライブ

・プラレールの寄付募集と地域利用

プラレールの寄付をタウンニュースや SNS で呼びかけ 20 人を超える方からご寄付をいただいた。整備会を開催し、一つ一つ丁寧に整備して管理保管をした。

プラレールの活用：みんなのプラレール広場の実施。イベント等への貸出（リノアス、第 7 回はったつ Fes、鶴見小学校キッズクラブ、ひだまりの保育園）

・みんなのプラレール広場

日 時：令和 6 年 11 月 23 日（土）10:00～16:00

場 所：鶴見中央コミュニティハウス

参加者：557 人

主 催：鶴見中央地区社会福祉協議会

② 地域資源の調査・研究・開発事業

ア 地域活動交流拠点 230cafe（つみれカフェ）の運営

「つみれプロジェクト実行委員会」での運営を中止。サードプレイスが運営を引き継ぎ、貸しスペースとして稼働。

令和 7 年 3 月 31 日で貸しスペースとしての稼働を終了。

自主事業の実施：プラレールカフェ

イ 事業の運営申請準備

横浜市内や鶴見区内の委託事業の受託に向けての調査

こども家庭庁で予算化されている子どもたちの居場所づくりや子どもの貧困対策、ひとり親家庭等支援関係、家庭支援事業関係についての勉強会を実施。

ウ 鶴見区ひとり親世帯支援

- ・鶴見区にお住まいのひとり親世帯向け食料品配達

寄付で得られる食料品や購入して集めた食料品の配達を継続して実施。「配達の際に、食料品以外の困り事の聞き取りを行い、アセスメントを実施。継続相談が必要な家庭を児童家庭支援センターにつなぎ、定期面談をおこないながらフォローを続けている。(相談支援事業)

実施回数：12回

配達世帯：延べ152世帯 子どもの人数：240人 延べ利用人数：392人

※令和6年度／令和7年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の助成を受け実施

- ・ひとり親世帯の子どもたちの居場所

ひとり親世帯の不登校傾向のための子どもたちの居場所づくりを検討。ひとり親世帯向け食料品配達の利用者からのヒアリングや鶴見区内のひとり親世帯からのニーズ調査を実施。プレの居場所を実施。

開催回数：28回

参加者数：延べ22人

※令和6年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業の助成を受け実施

エ 地域の取り組みへの参画

- ・鶴見中央地区社会福祉協議会

企画会委員として運営に協力。第4期鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）鶴見中央地区の計画策定に協力。

- ・三ツ池公園フェスティバル（今年度は雨天中止）

鶴見区内企業と協働でサステナブルな環境保全がテーマのブース（トイレットペーパーと交換したり、支援が必要な子どもに文房具を送るための未使用鉛筆などの回収、会場内のゴミの分別）を近隣の中学生と一緒に準備。

開催に向けてイベントやブースの啓発のための「三ツ池会談」を協働で実施。

- ・つるみ夢ひろば実行委員会

第10回つるみ夢ひろばin總持寺の実行委員メンバーとして協力。地元企業と協働で、イベント当日の会場担当を担いました。

- ・ケアサークルみま～もすえよし

ともに支えあい、より安心して生活できる地域を目指し、まずは顔の見える地域にしていきたいと介護事業所や地域の方々で組織されているケアサークルみま～もすえよしの理念に賛同し、賛助会員として参加。鶴見区内の児童支援や居場所づくりの様子について交流会などを通じ共有した。

才 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）

地域のご高齢者の外出の機会づくり、孤立防止のための居場所づくりを目的に介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業サービス B 通所型）を実施。横浜市通所型支援：リハビリ体操、ピラティス、映像を見ながら懐古談など

日 時：木曜日 10:00～13:30

場 所：地域活動交流拠点 230cafe（つみれカフェ）

開催回数：47 回

参加者数：248 人（うち要支援者数：22 人）

力 あすのば給付金受給者 6 千人調査

公益財団法人あすのばが実施する「あすのば入学・新生活応援給付金」などを受給した全国の生活保護世帯・住民税非課税世帯などの子ども・若者（小学 4 年生～20 代半ば）と保護者 6,000 人の調査について、給付金受給者アンケート検討委員会委員として協力。

キ 日韓ダブルケア支援プロジェクトへの参加

「日韓におけるケアラー支援：ダブルケアラー・ヤングケアラー支援とケアが豊かな地域社会—ケアリングデモクラシーへの学び合い」（2023 年度トヨタ財団国際助成プログラム）プロジェクトチームに参加。

韓国ダブルケア支援研究者・実践者が来日：「日韓におけるダブルケアラー・ヤングケアラー支援について学び合う 3 日間」の複数セッションを担当。地域活動交流拠点 230cafe で制度と支援現場の狭間の問題について勉強会、サードプレイスが実践する地域と連携した子どもたちの支援事業の講義を実施。

「日韓ダブルケア支援プロジェクトチーム『ダブルケア調査 2025 速報 政策提案書』2025 年 7 月 7 日版」の作成に協力。

ク 取り組みの応援者を増やすための情報発信

- ・ Web、SNS の活用

ホームページ：<https://www.n-thirdplace.com/>

Facebook：<https://www.facebook.com/thirdplacetsurumi>

Instagram：<https://www.instagram.com/thirdplacetsurumi>

- ・ タウンニュースへの掲載依頼

サードプレイス事務局実施の取り組みや運営施設での取り組みなどを積極的に情報提供し、自分たちの取り組みを知っていただく機会を増やした。

- ・ メディアへの取材対応

Web メディアや地元企業の機関紙などの取材を積極的に受け、さまざまな方の目に触れる機会を増やした。